

『言葉について少し独り言をつぶやきます。』

親ならお子様が入学、入園、進級など大きくなるにつれて、「ちゃんとしなさい」しっかりしなさい」「おにいさんになるんだから」などと、言ってしまふことがあるかもしれません。

このような言葉は全くもって子供の心に響きません。それに成長に関係はありません。では実際に、子ども側から見て考えてみましょう。

- ・「ちゃんと」って→なに？
- ・「しっかり」って→なに？
- ・「おにいさんなんだから」って→なに？
- ・「何回言えばわかるの」って→わかるまで伝えるのが育児や教育じゃない？
- ・「前もいったでしょ」って→前ってなに？前に、なに言った？  
言った本人しか覚えていません。繰り返し伝えるのが育児や教育じゃないの？
- ・「はやくしなさい」って？→突然言われても困ります。時間概念が無いのにね。  
何時に出たいと思っているのは大人だけですから。
- ・「はやく着替えないと置いて行くよ」って？→でも結局連れて行くよね
- ・「あなたのためをおもってやってるの！」って→なにを？どのあたり？
- ・「ダメ」って？→☆ダメってなにがダメ？今やっていること全て？  
せっかく興味関心持ってやり始めたのに 興味を持つことすらダメ？  
大袈裟かもしれないが主語がないため全否定されているのです。

などと、よく考えると主語がなく言われた方が混乱してしまう様な言葉はまだまだ、たくさんあると思います。

これは、イメージのギャップによる攻撃になってしまいます。大人になり、ある程度の生活経験を積んだ大人同士なら伝わるかも知れませんが、言われた子どもにとっては、暗号か外国語の様に聞こえてくるでしょう。動くことができるのはその時の大人の表情や声色で判断して、訳わからず怒られてるから動こうとしか思わないので、意味を理解して動いているのではなく、その場をやり過ごすだけの行動になってしまう。

子供だから言い返しはせず、従順しますが、もしこれが大人同士だったらと考えると怖いですね。夫婦間だったらさらに怖い事になりそう。

例、「食器の洗い物」もし子供や旦那がやってくれたら

○食事→流しまで片付ける→洗う→拭く→片付ける（食器棚にしまう））

『終わった後母は気付く』・しまうところが違う ・仕舞うとき必ず割る

どうなりますか？

「なに！！やってんの！！」が勃発 ダメじゃない！！ 何時もそうなんだから 全否定でも、このなかにやってもらおうと助かるところもある。やってもらっても大丈夫な所もある。

例として、「お皿割れちゃったね 大丈夫？ 怪我していない？」

「お皿割れちゃうと危ないから次は洗うところまでお願い。」など言い換えが出来るといいですね。

大丈夫なところまで具体的に伝えてそこまで頼んでみてはいかがですか？ 全部やらなくても自己肯定感は作りあげられます。

問題があったところだけピックアップされてしまいますが、全てが問題にはなっていません。ちょっと考えてあげてください。結果だけが全てではなく過程も評価してあげてください。

やってほしいこと欲しくない所に主語をしっかりと入れ簡潔に伝える様にしてみるのもいいでしょう。「ちゃんとおもちゃを片付けようね」しっかり手を振って歩こうね」など、もし、「ちゃんとやしっかり」と言い始めてしまったら主語を付け加えてあげてください。ちゃんと、しっかりと曖昧な言葉ですけどね。ヤバイもマジもおなじですね。

子ども達はせっかく色々なことに興味関心を持っているのですから、広く浅く沢山の事に触れさせてあげてください。

『うちの子飽きやすい、うちの子長続きしない。』

というのは大人の感覚で、子どもは興味関心の塊りで出来上がっています。目に着くものに飛び付き、少ない時間で多くの経験をしようとしているのです。興味を持ったならそちらの方へ向かいます、そして一通りやってみます。また、興味が湧くものに目がむきます。

これを繰り返しているだけです。この繰り返しが多い子ほど多方面に渡って情報を手に入れるのです。その選択肢が多い子ほど、『やりたい事や続けたい事』に出会った時は集中して長続きします。

逆に大人は経験を積んで来ているせいで、生活をどうやって効率よく進めていこうと考えてしまいます。しかし効率よく進められる様になるのは、多くの経験が必要になります。

それは幼い頃沢山の無駄をしてきたからです。それらの中で多々ある失敗を糧として、知り得た知恵を活用する様になれたからです。効率ばかり求めて失敗をさせない様にしては非認知能力が育ちません。

子供の失敗は親にとって「見るに耐えない苦痛」ではなく、成長の糧と思ってもらえるといいなあと思います。一緒に失敗を共感して子供と考えてもらえるとうれしいです。近道は逆に遠回りになってしまいます。

結びになりますが、子供の生活や子育ては課せられたタスク（課題）でなく、トラブルが有るのが当たり前で、連続するトラブルをどうやって工夫して解決して行くことだと思います。また、子どもは泣いている時、黙って答えられない時は頭の中がパニック状態になっています。何を問い詰めても答えは返ってきません。その場で身につける事ができる技術は自己防衛本能になってしまいます。この言葉を言えば、行動をすれば大人が落ち着きその場をしのげると言う対処方法だけです。

落ち着くまで背中合わせでいたり、背中合わせでそのままお話をしてみてもいいかもしれせん。

親子といえ個人と個人の関係であり、生きてきた長さが違います、価値観や意見が合わないのは当然だと思います。

それらを調和して行くためのものが育児や教育、地域や社会だとも思います。自分一人で抱えず、身近な祖父母や地域のコミュニティなど先輩達とお話ししてみることも良いかとも思います。